

1989年デンマーク映画アカデミー賞 主演女優賞・助演男優賞・助演女優賞

1989年デンマーク映画批評家賞 主演女優賞・主演男優賞・助演男優賞

1989年北欧映画祭・主演女優賞受賞

マリアの泉

HIMMEL OG HELVEDE

コペンハーゲン、冬。
ビードロの青春を駆けぬけた
マリア、18才。衝撃の季節。

少女は本当の愛と自由を
知りたかった



カリーナ・スカンズ／ハリエット・アンデション
エリック・モルク／リーゼ・リングヘイム／オーレ・レムメケ
製作マス・エグモント・クリステンセン／ティエヴィ・マングヌソン
監督モーテン・アーンフレス
原作ケアステン・トールップ
脚本モーテン・アーンフレス／ヨーン・ユングダール
撮影ティアク・フリーエル／音楽オーレ・アーンフレス
デンマーク映画／配給アルバトロス・フィルム 

監督モーテン・アーンフリーズ

1945年生まれ。彼の映画との関わりは、まず、スチールカメラマンからで、その後、編集者、脚本家をへて、短篇映画、CF監督となった。76年、青春映画「レッツ・ドゥ・イット」を夫人と共同プロデュースし、78年にはこの映画の続篇とも言うべき「ミー・アンド・チャーリー」で長篇劇映画の第一作を監督した。この作品で、デンマークの映画批評家賞(ポディル賞)最優秀作品賞を受賞、一躍注目され、80年の「ジョニー・ラーゼン」、83年の「ランド・オブ・プレントイ」でもポディル賞を獲得、これらにより「80年代の最も注目すべき監督」と言われた。この「マリアの泉」は、彼の第5作目で、作品のテーマと主人公たちのキャラクターに現在のデンマークのかかえる社会性、人間性を巧みにとり入れ、見事な出来となっている。彼の作品はすべて世界の主要映画祭に出品され、また劇映画以外にもドキュメンタリー映画やTVドラマも手がけている。



マリアの泉

HIMMEL OG HELVEDE



製作——— マズ・エグモント・クリステンセン
 ティー・ヴィ・マーズグッソン
 監督——— モーテン・アーンフリーズ
 原作——— ケアステン・トルップ
 脚本——— モーテン・アーンフリーズ
 ヨーン・ユングダール
 撮影——— ディアク・ブリーエル
 音楽——— オーレ・アーンフリーズ
 マリア——— カリーナ・スカンズ
 ヤーミン——— ハリエット・アンデション
 ボルス——— エリック・モルク
 ミス・アナヤサン——— リーセ・リングヘム
 ジョニ——— オーレ・レムメケ

Producers— MADS EGMONT CHRISTENSEN
 TIVI MAGNUSSON
 Directed by——— MORTEN ARNFRID
 Based upon a novel by— KIRSTEN THORUP
 Screenplay by——— MORTEN ARNFRID
 JØRGEN LJUNGDAHL
 Director of photography——— DIRK BRÜEL
 Music by——— OLE ARNFRID
 Maria——— KARINA SKANDS
 Jasmin——— HARRIET ANDERSSON
 Bols——— ERIK MØRK
 Miss Andersen——— LISE RINGHEIM
 Jonni——— OLE LEMMEKE

デンマーク映画/1988年作品/98分/カラー
 ドルビーステレオ/製作:メロノーム・プロダクション

introduction

思春期の少女の心の成長を描いた傑作「アーリー・スプリング」を製作したメロノーム・プロと製作者ティー・ヴィ・マーズグッソンが再び、デンマークのコペンハーゲンを舞台に、年上の教師に恋し、傷つきながらも自立していく、18歳の少女の青春の光と影をとらえた名篇を作りあげた。それは、1960年代後半の社会が混乱していた時代のデンマーク、コペンハーゲンでのひとコマのドラマだ。マリアという名の、まだ未熟だが純真な心を持ち、ヴァイオリンを学んでいる少女の、妻ある教師との実りなき初恋、挫折、自殺未遂、家出、同棲……と、少女から、大人へと成長していく、こわれやすいガラスのような青春のさすらいを鮮烈な映像でとらえている。

過去にデンマーク映画批評家賞(“ポディル賞”)の作品賞や監督賞を何度も受賞している鬼才監督モーテン・アーンフリーズが、ベストセラー小説「天国と地獄」(原作ケアステン・トルップ)を完全映画化した作品である。

ヒロイン、マリアを驚くべき繊細さで演じたのは、新人カリーナ・スカンズ。この映画が彼女のデビュー作で、400人の候補者の中からこの大役を射止めた。6ヶ月以上も日に12時間も抱束されたというその演技は、アーンフリーズ監督に言わせると“全く信じられない。まるで20年も演技をしている女優のようだ。”と絶賛され、89年デンマーク映画批評家賞、デンマーク映画アカデミー賞(“ロベール賞”)、北欧映画祭などで主演女優賞を総ナメにした。共演には、「不良少女モニカ」「鏡の中にある如く」「ファニーとアレクサンデル」など、ベルイマン作品の常連でスウェーデンの名女優ハリエット・アンデション、ベテランのエリック・モルク、新人のオーレ・レムメケなど、新人、ベテラン・スターで固められている。

アーンフリーズ監督は語っている——“マリアは愛を通して自由を見つけられるのか、それとも愛することが出来る前に自由を得なければならないのか。私はマリアの話を、閉ざされた部屋から出ようとする女性たちについてのポエム、ブルー・ポエムとしてとらえている。その部屋には意志薄弱な男たちがペーソスを与えられ、とり残されている。”

story

1960年代後半のデンマーク、コペンハーゲン。この時代、デンマークは不穏な空気に包まれていた。若者を主体としたフラワー・パワー、学生や労働者たちのデモ行進など、つまりは反体制の時代であった。しかし、この映画のヒロイン、18歳のマリアの生活は静かで、凍りついたように安定している。マリアはヴァイオリン・ケースの中だけに生きていた。彼女は有名な音楽学校コンセルバリーに通い、毎日が練習に明け暮れていた。彼女の青春は音楽だけだ。だが、この音楽学校の教師との出会いが、少女マリアに大きな変化をもたらすことになる。

ある日、マリアはいつものようにヴァイオリンの練習中、突然に教師に抱かれた。驚きと、未知の憧れの中で、日頃から教師に好意をいだいていたマリアは彼のなすがままにした。それは立ったままで、激しく大人の愛が彼女の中に入ってくるのを感じた、マリアにとって初めての体験だった。

彼女は子供ができるのではないかと不安に襲われ悩むが、日増しに教師への愛をつのらせる。しかし、次に会った時、教師は別人のように冷たくマリアを突き放した。教師には妻子がいたのだ。まだ幼く、大人になりきれないマリアは絶望感に襲われ、自殺を図るが一命をとりとめる。彼女はヴァイオリンを捨て、両親の元を去った。

マリアは街でウェイターのジョニと知り合い、同棲生活を始めた。ジョニは真面目で、ただひたすらマリアを愛し、仕事にも情熱を傾けていた。だが、ジョニにはマリアが知ってはならない秘密があった。彼には別に愛している男がいたのだ。マリアはショックをうけ、ジョニの元を去った。マリアは愛の悲しみを感じるが、もう絶望はしない。マリアはすべてから自由になったのだ。自分自身の意志に忠実に生きようと、再びヴァイオリンを手にするのだった。



カリーナ・スカンズ

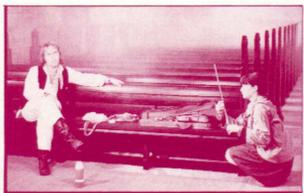
この映画に出るまで彼女は、7ヶ月間のほんのお遊び程度の演技トレーニングとアマチュア演劇の経験しかなかった。1966年生まれのカリーナは、高校で音楽と外国語を専攻し、87年にイスラエルに留学しようとしていた時、この映画のオーディションで400人の候補者の中から主役に選ばれた。そしてデンマークの批評家及び新聞記者の選考(ポディル賞)主演女優賞、デンマーク映画アカデミー賞(ロベール賞)主演女優賞、北欧映画祭主演女優賞を獲得し、“将来最も有望な新人名女優”と絶賛されている。なお、彼女はこの映画のために6ヶ月以上の撮影と、毎日12時間も拘束された映画製作にあまりいい印象を抱いていないのが面白い。“私にとって最悪だったのは、なんといっても毎日ヴァイオリンの弾き方を練習しなければならなかった事”と笑って語っている。



ハリエット・アンデション

1932年1月14日スウェーデンのストックホルム生まれ。デパートのエレベーター嬢をしていた時にスカウトされ、49年にオスカー劇場でミュージックホールのダンサーとして芸能界入りした。50年、これが認められて映画界にデビュー。52年にイングマール・ベルイマン監督によって彼女をイメージして「不良少女モニカ」が撮られ、彼女の代表作となる。以後、ベルイマン作品の常連となり、舞台でも53年から55年、56年、61年に出演し、舞台女優としても名をなした。60年代にはベルイマンや夫の監督ヨルン・ドンナーの作品群に出演、名女優として活躍している。TVムービーにも出演。この映画でデンマーク映画アカデミー賞(ロベール賞)助演女優賞を獲得している。

[日本公開作] (53)不良少女モニカ、道化師の夜 (54)愛のレッスン (55)夏の夜は三たび微笑む (61)鏡の中にある如く (64)愛する、歓喜のたわむれ (66)蛇 (67)恐怖との遭遇 (TV放映)、花卉が濡れるとき (72)叫びとさきやき (82)ファニーとアレクサンデル



5月6日(水)独占レイトショー! (PM9:00より 日曜・祭日を除く)
 お得な特別鑑賞券1300円発売中

銀座三越先・歌舞伎座手前
 銀座 シネパト
 03(3561)4660